

令和2年度は7名の隊員が活動しました

令和2年度安平町 地域おこし協力隊 活動報告

地域おこし協力隊は、「意欲のある都市人材」を受け入れ、町の課題解決に向けた任務に携わっていただく制度です。任務以外にも、兼業や地域活動を行ってもらいながら安平町への定住定着を模索し、地域力の維持・強化を図っていくことを目的としています。令和2年度、安平町では7名の隊員が活動を行ってきました。

「問合せ 政策推進課 ☎22・2751」



遠藤 玲奈

Endo Rena

農産物直売所推進員

道の駅の農産物直売所「ベジステ」の運営を担当しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で道の駅が臨時休館になったりしましたが、その間もレジスタッフ向けの仕事マニュアルや地方発送マニュアルを作ったり、道の駅のファンを増やすためのポップ作成やSNSでの情報発信をしたりして、お客さんに喜んでもらえるようなベジステづくりを進めてきました。6月からは農産物の地方への発送を開始したり、9月と10月は収穫祭としてきたあかりやミニトマトの詰め放題企画を行いました。

道の駅ができたことで、新しい雇用場、交流の場、そして農家さんたちを支える場が整ったと思っています。その運営に関わる一員としてさまざまな取り組みを行う中で、安平町に交流人口を増やすという点から貢献できていると感じています。

令和3年度は協力隊の最終年度になりますが、引き続き頑張っていきたいと思っています。



道の駅は
こちらから



台 正 人

Dai Masato

復興支援員

エントランスは
こちらから



令和2年度も「安平町の復興に関する情報発信担当」の役割を担っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で人を集めることができず、多くのイベントが中止になったりと、なかなか思うように発信ができない1年になりました。その一方で、もう一つの任務である追分駅前のコミュニティスペース「ENTRANCE（以下エントランス）」の運営には力を入れて行うことができ、町民から要望があった「会議室の設置」や感染対策を万全にした「町民向けイベント」を行うなど、コロナ禍においても精力的に動くことができました。また、今年度からあびらチャンネルの番組（コーナー）進行を任せていただくなど、町内の様々な魅力ある取り組みをテレビ画面を通じて発信させていただいております。多くの方に番組を見ていただいておりますと以前よりも声を掛けられるようになり、「番組を見ていただいているんだな」と大変嬉しく思っています。

令和3年度が協力隊としての最終年度になりますが、ここまで支えてきてくださったすべての方々に恩返し
の気持ちを込めて、1年間全力で活動してまいりま
す！令和2年度も大変お世話になりました！
ありがとうございます！そしてこれからも
どうぞよろしく願いいたします！
明るく元気に楽しくいきましよう！



溝 口 駿

Mizoguchi Shun

復興支援員

「震災からの復興には、まちの賑わいが不可欠」そんな思いから復興支援員として、震災復興のシンボルでもある「道の駅あびらD51ステーション」を拠点に町内外の交流を生む様々なイベントを企画・運営しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により「菜の花さんぽ」などのイベントの中止が相次ぐ中、追分駅前にあるコミュニティスペース「エントランス」と協力して町内のアウトドア施設の紹介やキャンプ用品を販売した「あびらアウトドアインフォメーション」、道の駅を運営するあびら観光協会が実施しているグリーンツーリズムをPRする「あびらグリーンツーリズムインフォメーション」の設置などを企画しました。その他、あびら鉄道交流推進協会（おおぞら会）と連携して行った鉄道関連イベントや道の駅に展示している特急車両「キハ183・214」の公開

の補助など、町内外で活躍する各種企業・
団体と連携し、イベントの企画実施を行
いました。令和3年度も引き続き関わる人々
との交流を意識した「次につながる賑わい
づくり」を心掛けていきます。

道の駅は
こちらから





河嶋 愛基

Kawashima
Aiki

あびら教育プラン推進員 **学びプロモーター**

令和2年度も引き続き、教えない放課後教室「あびらぼ」の企画運営を担当しました。週1回の通常プログラム（追分・早来各教室につき小学部および中学部を設置）には現在33名の小中学生が参加し、学校や学年を越え学びを深めています。授業には「探究シリーズ（身近なテーマをいつもと違う視点から捉え直すことで、見える世界を拡げより面白くする授業）」と「スキルシリーズ（社会で必要な考える力や伝える力身につける授業）」の2種類があります。9月まではオンライン、10月以降は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し対面にて開講してきました。プログラムを通して、子どもたちはこれまで以上に「なんでもない日常に、おもしろフィルターを」かけられるようになったと感じます。また、令和2年度からは「あびら教育プラン」の取り組みの一つとして、

あびらぼは
こちらから

「遊育事業」や「カイトク事業」との連携を進めてきました。何度かあびらチャンネルに出演させていただいたことで、子どもたちから「あいきち！」と声を掛けてもらえる機会も増えました。さらに、教室だけにとどまらず、小中学校との連携や町外向けの活動など新たな取り組みにも積極的に挑戦しました。「センセイサポート」では、小学校における授業等の設計・実施を担当いたしました。安平・苫小牧・千歳の3地区にて行った公開探究授業では、計100名を超える親子にあびらぼのプログラムを体験していただきました。



松岡 亮

Matsuoka
Ryo

あびら教育プラン推進員 **チャレンジプロモーター**

令和元年度から始めているクラウドファンディング支援活動のほか、令和2年度はコロナ禍における飲食店のオンラインチケット販売サポート、町民の方の小さな挑戦を応援する仕組みを作るなど多岐にわたる活動を実施しました。

クラウドファンディングでは「あびらジンギスカンプロジェクト」が好評で、支援者数509人、総支援金額283万6000円、支援達成率94.5%と素晴らしい結果になりました。また、やりたいことや小さなアイデアを聴衆の前で発表して資金を募るリアルクラウドファンディングイベント「アビラトークス」もイベントランスで2回開催し、合計で5名の登壇者、延べ46名の方が参加してくれました。このアビラトークスからは4つの面白いプロジェクトが成立しています。令和3年度も、一歩踏み出す人の支援、そしてそれを応援するコミュニティづくりを推進し、安平町に挑



カイトクは
こちらから

戦文化を根付かせることに取り組みたいと思います。（特に子どもたちの挑戦教室!?）をやる予定なのでご期待ください♪



鈴木 宙夢

Suzuki
Hiromu

あびら教育プラン推進員
遊びプロモーター

令和元年度の「遊びプロ推進員」の石川恵理さんの後任として、遊育事業を引き継いで活動を進めてまいりました。令和2年度の遊育事業では「子どもの意見を元にしたイベント」を計23回行い、親子合わせた参加者数は述べ436人となっています。その他、追分駅前のコミュニティスペース「エントランス」では、毎週水曜日と金曜日の放課後に「ふれいば」という遊び拠点を作り、主に追分小学校の子どもたちが遊びに来るようになりました。また、同じく追分地区にあるガンケ山でもプレーパークのイベントを定期的に言い、千歳や苦小牧など町外からも親子で参加してくれるようになっていきます。令和2年度は新しくパンフレットを作成したり、「遊育通信」を作成してSNSでお届けしたりなど、情報発信にも力を入れてきました。緊急事態宣言が発令された際には安平町YouTubeで遊び動画を出したり、あびらチャンネルにも定期的に出させていただいています。それもあって、追分小学校の児童数の50%以上が遊育のイベントや取り組みに参加してきています（1年生に限ると90%以上が参加しています！）。令和3年度も引き続き安平町に遊び拠点を作りつつ、追分地区以外での活動も行っていきたいと思っています。



遊育は

こちらから



木下 知佳

Kinoshita
Chika

シテイプロモーション推進員

「広報あびら」と「広報笑顔」の編集、そしてフェイスブックでの情報発信を行っています。フェイスブックでの情報発信は週3回を基本とし、令和3年2月20日の時点で、110記事を更新しました。

広報紙の編集には令和2年6月から携わり、文章の修正や入稿作業を主に行っていますが、広報あびら7月号の手ぶらキャンペーン特集では紙面に使用する写真撮影を、8月号のアサヒメロン特集では新規就農者の対談や豆知識のページを担当。11月号からは「町民の方に、役場の業務をより知ってもらおう」と「役場職員に聞く」という企画記事の連載を5回にわたり行いました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの中止が多く、残念な1年に。令和3年度は、自分自身のレベルアップに努めながら、シテイプロモーションを意識したフェイスブックでの投稿に力を入れていきたいと思っています。



安平町
フェイスブックは

こちらから

